



わたし、アナタ、min-na

No.12

そのすがたがうれしい

SSH 編

2026年9月28日 市立札幌開成中等教育学校便り

〒065-8558 札幌市東区北22条東21丁目1-1

TEL 011-788-6987(代表) FAX 011-781-5629

HP <http://www.kaisei-s.sapporo-c.ed.jp/>



市民向けの玉ねぎ染め体験イベント in さとらんど！

8/29(土)、6年次生5名が札幌市東区にある「さとらんど」で、市民向けの玉ねぎ染め体験イベントを開催しました。このイベントは、今年3月の「札幌市まちづくりコンペティション」で玉ねぎ染めの観光要素化を提言して最優秀賞を受賞した際に、札幌市まちづくり制作局の方から声をかけていただいたことで実現しました。

5人は5年次生の時に「コスモサイエンス」で、「世界的な化学染料問題と、札幌市の人口減少を緩和するために新たな魅力を創出したい」という世界と地域の課題を掛け合わせて研究テーマを考えました。従来の玉ねぎ染めは、茶色や黄色など、染まる色が限られていたため、研究ではSSHで培ってきた科学の力を活用し、カラーバリエーションを増やそうと考えました。訪問取材させていただいた農家の方から大量の玉ねぎの皮を実験用に提供していただき、仮説→計画→実行→振り返りのサイクルを実験のたびに繰り返し、納得のいくまで1年半にわたって何度も実験を重ねました。最終的にピンクやベージュ、カーキなど幅広いカラーバリエーションを実現することができました。

受賞後に札幌市まちづくり制作局の方から声をかけていただいたその瞬間から、カラーバリエーションを実現するという課題から、どのように人に伝え楽しんでもらうかという新たな課題に向き合うことになりました。実際に草木染めイベントを行っているはまなす工房様を訪ねたり、助言をいただいて今年6月にはCASとして学校内でプレイベントを開催しました。そして多くの方に支えていただきながら、さとらんどのイベントへとつなげていくことができました。

当日は、小学生から高校生、ご高齢の方まで、幅広い年代の市民の方にお越しいただきました。イベントでは、参加者の皆さんと一緒に玉ねぎの皮でハンカチを染め、今回新たに取り入れた絞り染めによって、それぞれがオリジナルの模様をつくったり、札幌と玉ねぎに関するクイズや、開成で行ってきた研究の発表など、楽しみながら玉ねぎや札幌について知ってもらえるよう、さまざまなアクティビティを取り入れました。参加者の方々からは、「玉ねぎ染めを楽しみながら札幌のことをもっと知れた」「玉ねぎ染めがもっと広まってほしい」といった声をいただきました。さらに、参加者の方が玉ねぎの皮から鮮やかな色が生まれることに驚いたり、完成した模様を互いに見せ合ったりする姿を目にし、研究を続けてきたことが実際に誰かの楽しさや学びにつながったのだと実感しました。1年半の探究を通して、研究成果を社会につなげることの大切さと、人とのつながりが探究を前に進める大きな力になることを学びました。



SSH・コズモプロジェクト中間発表交流会

令和8年9月29日3セッション目、「半年間の探究成果の発表と全学年の交流をととして、思考スキル（科学的思考力）やコミュニケーションスキル（科学的表現力）を育成するとともに、課題探究学習や科学技術への意欲の向上を図る」を目的として「SSH・コズモプロジェクト中間発表交流会」を行います。これは1年生～6年次までの6人でグループを作り、それぞれの学年に応じた探究活動を発表し合って議論したりアドバイスをしたりし、大いに交流する行事です。今年度はスライドだけでなく、成果物等がある場合はそれらも用いて発表したり、実験ノートやプロセスジャーナルを持ち寄り、学年分け隔てなく交流することもねらいとして考えています。学年ごとの発表内容と心構えは次のとおりです。

1年 試行錯誤 2年 試行錯誤 Pro 3年 コズモリサーチ 4年 パーソナルプロジェクト
5年 IP コズモサイエンス課題研究/DP 科学協働プロジェクト
6年 IP コズモエッセイ英語による動画発表/DP CAS TOK EE

学年/ 目標	発表者として	聴衆として
1年	・自分の興味関心を言語化する	・疑問に感じたことを質問する
2年	・自ら立てた仮説や、実際にやってきたことを伝える	・相手の発表のよいところを聞き取って質問する
3年	・1つの視点ではなく、多角的な視点を意識して発表する ・データやグラフを使って根拠を示す	・前期生のリーダーとして、今までの経験を元に相手の発表の要点を理解し、建設的な質問を心がける
4年	・自分の興味関心をきっかけに、根拠を持ってプロジェクトを行ったことを発表する ・スキルの活用内容やプロジェクトが自分に与えた影響についても発表する ・相手に伝わるように複数の情報を表やグラフ等を使って発表する	・ATL スキルや発表者の今後の活動についても質問する ・個人の興味関心だけでなく、発表者のプロジェクトに社会的な価値を見いだすことができる
5年	・興味関心はもちろん、根拠を持って活動していることを知ってもらい、社会にどう活かせるかを発表する ・複数のデータ・グラフ・図等を用いてわかりやすく見える化する	・進行役として、各学年のよさを引き出す質問を投げかける ・発表をつなぐ言葉を工夫し、場を穏やかに保つ ・発表者の学年に合わせて的確なアドバイスを送る
6年	・自分のテーマを深く掘り下げ、課題解決や新しい提案につなげる ・後輩が「こんな風に学んでいきたい」と思える発表をする ・学んだことをどう社会に活かせるかを示す ・自身の進路に関連させて発表する	・今までの自身の開成生活を振り返り、やっておいの方がいいこと、考えた方がいいことを交えながら質問する ・発表者の学年に合わせて的確なアドバイスを送る